



## 開業して思うこと



首里眼科院長 宮平 誠司

私は、琉球大学を卒業後、母校の眼科学教室に入局し、2年間の研修後、多数の病院で勤務致しましたが、様々な眼の疾患を経験し、患者さんをとおして数多くの事を学ばせていただきました。

そして、平成18年4月、首里りうぼう斜め向かいに首里眼科を開院しました。勤務していた病院とは違う地域であり、ゼロからのスタートとなりました。医師会の先生方にも大変お世話になりましたが、医師以外の友人もどんなに大切かと改めて思いました。

まだ患者さんが少ない頃受診してくれたのは、小、中、高校時代の友人及び家族、美ら虎会（阪神タイガースファンクラブ）のメンバー、等など、おおくの友人に助けられました。

実際に開業してみると、珍しい症例、難治症例に遭遇することはあまりなく、Common Diseaseにきちんと対応することのほうがより大事だと思うようになりました。不定愁訴、不明愁訴で受診する患者さんも多く、診察の基本は、開業医に限らず、患者さんの訴えをよく聴くこと（聞くではなく）だと考えています。聴く基本（傾聴のスキル）には、相手を見る、うなずく、相槌を打つ、相手の気持ちをそのまま受け止める、共感的な聴き方をする、等がありますが、研修医の間に身につけておくべきでしょう。

開業医として成功するためには、医療の技術を磨くことは言うまでもありませんが、地域の方々に溶け込むことも大事です。私は、地域のカラオケ大会、ソフトボール大会、公民館祭りなどの地域行事には極力参加するようにしています。（単に、いろんな方々と酒を飲みながら

語り合うのが好きなだけなんですけど…）先日、高齢の男性がメガネの相談で受診しました。よくお話を聴いていると、「一週間前から黒い点が見えるけど」と（本人は気にしていないが）。もしや、と思って瞳孔を開いて眼底を見ると、上方に網膜裂孔があり広い範囲で網膜剥離がおこっていました。当院の網膜光凝固装置では対応できない状態です。撮影したばかりの眼底写真をモニターで示し、緊急に手術が必要であることを説明しました。自覚症状に乏しい患者さんの場合、ご理解いただくのに時間を要することもあります。この患者さんは、「公民館で一緒に酒飲んだ仲さー、全部宮平先生の言うとおりにするよ。」すぐ納得しました。受付時刻は過ぎていたのですが、琉大病院へ連絡して、その日の受診を受けていただきました。即日、緊急手術となり、事なきを得ました。その3日後、琉大で集談会の後お見舞いに行くと、私の手を握って「ありがとございます。全部先生のおかげさー」涙を流さんばかりに喜んでおられました。当院は、大学病院のような設備は整っていませんが、しっかりとした診断をつけて、必要に応じて適切に紹介するのが大事だと思います。

当院で全ての疾患をカバーすることはできないわけですから、他の先生方（他科も含めて）との連携を密にしておくことも大切です。琉大眼科の忘年会や那覇市立病院の新年会など、御招待があれば、万難を排して参加するようにしています。又、集談会等の学会には欠かさず参加していますが、新しい知識を身につけるうえでも大事なことです。紹介した患者さんがお世話になった先生

には、直接頭を下げてお礼申し上げるようにしています。日頃からネットワークを築いておくと、緊急時にも受け入れていただきやすい（ご迷惑かもしれませんが）と思います。

又、「医療はサービス業だ」ということを常に意識しながら、患者さんに満足していただける医療を提供していきたいと考えています。当院では、インテリアを含めたアメニティーの部分にも配慮し、患者さんが、待ち時間も安らぎを感じられるような、そんな空間となっています。「目の病気は治ったが心は晴れない」というのでは真の医療サービスとは言えません。目の治療をとおして心も癒される、そんな医療サービスを心がけています。

研修医の皆さんへの提言を述べさせていただくと、本を読んでわからないことは、指導医の先生に聞くことです。知識、技術の中には、本を読んでもわからない、実際に経験しないとわからないものもあります。聞くは一時の恥と心得ましょう。

最後に、自分自身が健康でないといけませ

ん。私は、タクシーは極力乗らず、バス停、モノレール駅まで（歩くのではなく）走るようにしています。そのかいあってか先日、血管年齢を測ってみると、（12月で46歳になりましたが）「血管年齢は40歳。血管が平均よりもやや弾力性に富んでいる」という結果でした。人間的な幅を広げるためには、趣味を持つのも大切なことです。首里眼科開院パーティーの時に琉大グリークラブ時代の仲間と男声四重唱を披露したところ、料理をデリバリーしてくださったフランス料理店の社長さんがえらく感動して、そのレストランで、父の日コンサート、クリスマスディナーコンサートを開かせていただきました。その後も、仲間のクリニックでの敬老会、協会のクリスマスパーティ等、歌う機会に恵まれています。皆忙しい中、診療を終えてからの練習は深夜まで及ぶこともあります。昔を思い出して、充実したひと時を感じています。

研修医の皆さん、肉体的、精神的にも健康に注意しながら、充実した研修医生活を送ってください。

